

5 校内研修計画

(1) 研修の目的

全職員が実践的研修を相互に深め、教職員としての資質の向上に努めるとともに、児童生徒の様々な力を伸ばすための具体的実践を積むことによって学校教育の充実を図る。

(2) 研修の視点

- ア 本校の学校教育目標を達成するための研修
- イ 教職員としての専門性や視野を広げる研修
- ウ 児童生徒の変容を追求し、その喜びを味わえる研修
- エ 全職員の協力体制のもと、効果的な運営組織で進め、主体的に参加する研修

(3) 研修の基本方針

ア 課題研修

- ① 全職員の意思統一を図り、常に児童生徒と密着した研究を進める。
- ② 課題研修の深まりや実践が、児童生徒に反映される研修を進める。
- ③ 教師としての専門性を深めるために、全職員が主体的に参加し、創りあげる研修にする。

イ 現職研修

- ① 人権教育研修、特別支援教育研修、道德教育研修、情報教育研修、不祥事防止研修等を推進していく。
- ② 職員の希望に添った実技研修を行うことにより、実践的力量の向上に努める。
- ③ 学期に1回、村内保育所との連携を密にし、研究や情報交換の機会をもつ。（保義連携）
- ④ 各種研究会の報道や児童生徒理解の場を適宜設け、共通理解の場とする。

(4) 課題研修について

ア 研究主題

主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成

～職員同士の対話による個別最適な研修と協働的な研修の一体的な充実を通して～

イ 主題設定の理由

① 教育の今日的課題から

近年、情報化やグローバル化といった社会的変化が加速度的に進展しており、未来について予測することが困難な時代である。今はまだ存在しない職業に就き、想像し得ないような社会の課題に向き合っていく準備をするための場として、学校が果たすべき役割は大きい。

学習指導要領では、こうした社会的動向を受けて、育成を目指す資質・能力を、「(ア)生きて働く『知識・技能』の習得。(イ)未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成。(ウ)学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養。」としている。様々な情報や出来事を正しく受け止め、主体的に判断しながら、社会の中で自分ができることを考え、他者と協働して課題を解決していく力が求められている。

また、令和4年度の中央教育審議会答申では、「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、多様な子どもたちへの個別最適な学びと協働的な学びの提供が主要なテーマとなっており、児童生徒だけでなく、教職員も自ら課題を設定し、その課題解決に向け主体的、協働的に学び合う研修が求められている。

② 本校の教育目標及びめざす児童生徒像から

令和8年度の本校の教育目標及び育てたい資質・能力は次の通りである。

教育目標

ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、心豊かでともに高め合う児童生徒の育成

育てたい資質・能力

実践力：自ら考え、自ら学び、行動する力

表現力：ともに高め合い、表現する力

郷土愛：郷土を愛する豊かな心

学校生活の大部分を占める授業の充実は、この教育目標の実現に欠かせないものである。実現に向けて、育てたい資質・能力の育成を図るための手立ての一つとして、校内研修において、「主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成」を目指していく。

昨年度は、前期課程・後期課程ともに同じ研究テーマで取り組み、「みずかみ学」に向けた更なる授業づくりの工夫・改善に取り組んだ。今年度は、本校の課題にもなっている「主体的に学びへ向かう児童生徒」の姿に着目し、教師自ら課題を立てて、その課題解決に向け協働的に学び合いを進める校内研修に取り組むことを掲げた。

③ 本校の児童生徒の実態から

それぞれの学力調査の結果は全体的には県平均を上回っていたが、共通して「読解力」に課題が見られる。また、普段の学校生活においても、「自ら考え判断し、主体的に取り組むことが苦手」「発表する子どもが固定化されている」「考えは持っているものの、それを表現できない（しようとしない）」などが課題となっている。

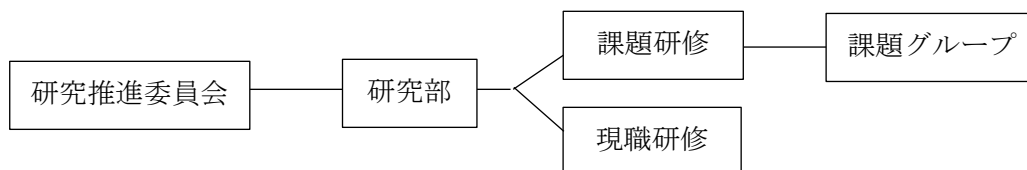
「学びの主体」は児童生徒であり、教師がそのモデルとなることの重要性を共通理解し、教師自らが主体的で協働的な学び合いの中で自分たちの授業を改善していく校内研修を実践し、児童生徒の「主体的な学び」や「表現力の向上」につなげていく。

さらに、義務教育学校としての強みを生かす点として、各ステージでの授業や家庭学習等の学び方の系統性を踏まえたより円滑な接続を進めていく。

これらの取組や実践を行うことで、児童生徒が「できた」「わかった」「次はこうしてみたい」と学ぶ意欲が高まり、「学び」に向かう姿勢が自分のものとして身に付くのではないかと考える。

このような理由から、本校の研究主題を「主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成～職員同士の対話による個別最適な研修と協働的な研修の一体的な充実を通して～」と設定した。教師が研修において受け身の姿勢で知識・技能を吸収していくのではなく、自ら課題を立て、その課題解決に向け協働的に学び合う「主体的な学び」、実践の振り返りを行うことで、さらによりよい授業実践につなげていく。また、ICT の効果的な活用等を通して、児童生徒一人一人に合った学習方法の選択や、学習の進度の把握などの実現を図る。

（５）研究の組織図



研究推進委員会：校長、副校長、教頭、研究主任、※教務、各ステージ担当（必要に応じて）

(6) 研究部の活動内容

- ① 研究内容の検討、研究計画の立案・修正
- ② 研究推進のための連絡・調整

(7) 研究の進め方

- 校内研修の時間は、原則として水曜日とする。
- 各グループおよび個人で日常の授業実践、参観を行う
- 3学期には、実践報告会を行う。

(8) 現職研修について

人権教育研修、特別支援教育、道徳教育研修、情報教育研修、不祥事防止研修等については、担当者と連携を図り、研修の機会を設けていく。また、各種研究会等の報道については、適宜機会を設け、情報提供する。

(9) 校内研修年間計画

回	月	日	校内研修内容
1	5	7	今年度の研修の進め方、研究テーマについて、資質・能力について
	6	15	授業参観ウィーク①
2	6	17	カリキュラムマネジメント
3	6	24	標準学力調査結果分析
	7	17	不祥事防止研修（学期末職員会議）
	7	31	「実践のあゆみ」中間報告（研究テーマの方向付けまで）
4	8	19	特別支援教育研修
5	8	24	人権教育実践レポート研修
6	9	2	全国学力学習状況調査分析
7	9	30	授業研究（道徳科）
	10	19	授業参観ウィーク②（10/19-10/23）
8	10	29	講話① 前田康裕 先生（熊本大学教職大学院 特任教授）
9	11	18	第三次とりまとめの研修
10	12	14	講話② 辻慎一郎 先生（鹿児島国際大学 准教授）
	12	24	不祥事防止研修（学期末職員会議）
11	1	13	「実践のあゆみ」のまとめに向けて
	1	25	授業参観ウィーク③（1/25-2/5）
12	1	27	人権教育実践レポート研
13	2	3	県学力学習状況調査結果分析
14	3	17	実践発表会（ポスターセッション） 前田康裕 先生 (熊本大学教職大学院 特任教授)
15	3	23	不祥事防止研修（学期末職員会議）、来年度の見通し

※不祥事防止研修は各学期終わりの職員会議後に実施する。

(9) 研究構想図

本校の教育目標

ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、心豊かでともに高め合う児童生徒の育成



研究主題

主体的に学びへ向かい、自らの考えを表現できる児童生徒の育成
～対話による個別最適な研修を通して～

児童生徒の主体的・対話的で深い学び

一人一人の学びを
最大限に引き出す
学習

個人が自ら課題を
発見し解決する
探求的な学習

個人の研究テーマ

安心安全な学校（人権教育の充実・環境整備）



保護者の願い

児童・生徒の実態

地域の願い